

## 在宅ホスピス実践リーダー養成研修報告

2017年5月～10月末日の期間、NPO 法人神戸なごみの家ホームホスピスで、24時間をとおしてケアの経験をいたしました。研修中は、訪問介護ステーションの看護師・ヘルパーという身分で雇用されていました。

この研修は、全国ホームホスピス協会と日本財団の共催（研修資金を助成）で、ホームホスピス開設を目指す医療福祉専門職を対象としたものです。

研修後、無事修了証を頂きました。

### 1 神戸なごみの家のご紹介

神戸なごみの家は、2軒のホームホスピスを運営しています。神戸市長田区の山の上にある「ひばりが丘」は高速長田駅から、バスで20分ほどの「丸山」と呼ばれる標高の低い山頂にあります。もとは、自宅付き診療所で、1階が診療スペース2階と離れが自宅という鉄筋の洋館です。（ぜひホームページで画像を見てください！）無機質な鉄筋ではなく、屋内外とも瀟洒なつくりで2階のリビングの照明はシャンデリアです。

外観は、地中海にあるような白壁にオレンジの瓦屋根、とても診療所とは想像できないつくりです。神戸ならではの西洋文化との融合の結果なのかもしれません。一室は6畳～8畳で1階に4部屋、2階に3部屋、それにキッチンが隣接しています。カーブを描いた階段には、脚力の弱い方用に昇降機が取り付けられています。庭は代表の松本京子さんの一番のご自慢です。開設当初、一年中草花を見られるように、園芸を勉強している学生さんたちが植樹してくださったのだそうです。

「中津庵」は JR 神戸駅からバスで15分、神戸大学付属病院をとおり、有馬温泉のある北の方へ坂を上がります。神戸は海と山に挟まれているので、住宅が山の中腹にびっしりと建っています。ひばりが丘に比べ、元町や神戸港の繁華街に近い住宅街の中に「中津庵」のおしゃれな看板がひっそりとかかっています。

そこは政財界の要人の隠れが的な高級料亭であったそうです。オーナーご夫婦が要介護状態となり、ホームホスピスとして開設を依頼してできたそうです。

持ち主は大家として、中津庵に引き続き住んでおられます。

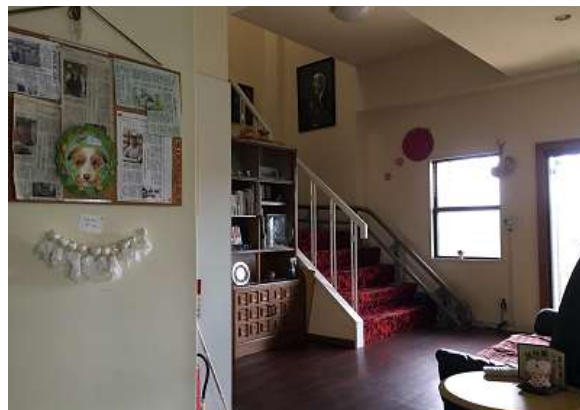
### 2 暮らしの中の消耗と快の体験に注目する

なごみの家で一番大切にしていることは、それぞれの住人の「消耗」となっている事柄を日々の生活の様子や主治医の所見などから見つけ出し、「快の体験をふやしていく」ためにどんな手当てや環境整備が必要か考え、そこから具体的なケアプランを立てていくことです。それは、徹底的に本人の言動や暮らしぶりを見つめることでした。そして、職種に関係なく、ケアの結果を1ヶ月ごとにミーティングで自分自身の言葉で伝え、新たなケアが必要かについて全員で議論します。

「命の消耗・快の経験・自分の言葉でスタッフ仲間に伝える」という視点が看護師と介護士が協働で、その人らしい生活を整える共通視点だと学びました。本当の医療と介護の連携のあり方を経験することができました。

また、生活の中でできるケアを考え出す知恵や機転が必要でした。たとえば、便秘解消のケアプランを実行する時、おなかのつぼ押しや腸の走行に従ってもむ、ホットパックをする。トイレのシャワーで刺激したり、重力で排便を誘導するため転倒に気をつけて一緒に歩く、三食間食に便をやわらかく腸の動きを良くする食品を食べてもらうといったことです。症状だけに注目するのではなく、その人にとって、便秘は心身にどのくらいの消耗で、健康的な生活に戻るために必要なことは何かという生活全体のケアに着目します。

暮らしの援助では、着替え・おむつやシーツ交換などをすると様々な物品がベッドや床に置かれます。それらを効率よく片付け、清潔で快適な室内に戻すにはどう動いたらよいか、家族が見て悲しくなるような部屋にしておかぬよう、ケアした場所を振り返って見る、職員の都合ではなく、本人と家族の目線に立ってみる訓練を積みました。



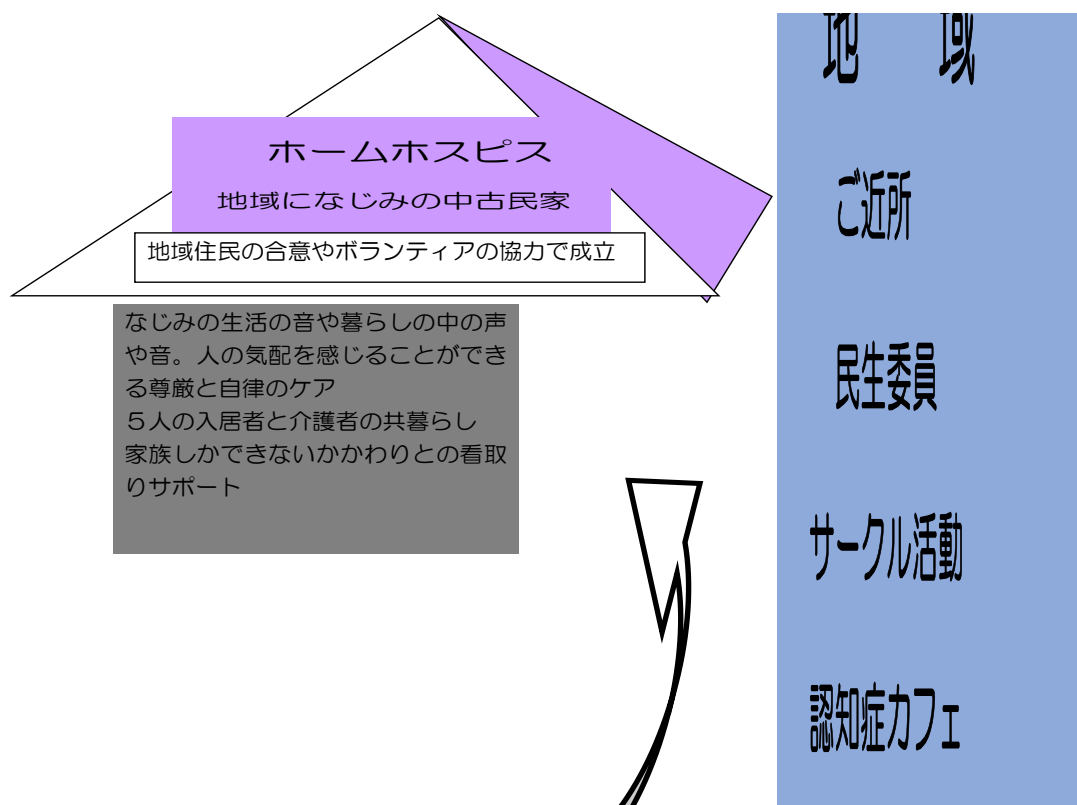
## ホームホスピス開設のスポンサーとなって

応援してくださる方を募ります。

ホームホスピスとなる一軒屋を提供してくださる方を同時募集

(家財付き歓迎。そのまま利用させていただきます)

### 地域と共生するホームホスピス



☆ご寄付、賛助をいただける場合は、

下記または、郵便局の振替票をご利用ください☆

【ゆうちょ銀行振替口座名義】 NPO法人あわホームホスピス研究会

【口座番号】 01610-3-69118

振り込み手数料がかかる場合、ご負担をお願いしております。

■他行からのお振込みは■

店名 一六九 店番169 当座 口座番号 0069118